

保育実習の振り返りに関する研究

A Study of Students' Reflections on Childcare Practice

戸田 恵理子、小浦 康平

1. 要旨

長崎短期大学では学生の保育士資格取得にあたり2年次の夏季休暇期間に10日間及び20日間の保育所実習を実施している。従来の保育実習の振り返りの手法としては、学生が実習終了後すぐに振り返りを行えるように授業時間を設けており、保育実習がどんな内容だったか、実習前の自分の想像とどれだけ乖離があったか、卒業までの残りの期間でどんな学修が必要かなど、実習を振り返って考えられることについて手書きのレポート形式で提出しており、結果からある程度の傾向が掴めていたが、学生にとっては自由記述欄が多く回答への負担があったと思われる。そこで、本学におけるICT導入・活用のひとつとして、今年度は共同教学IRネットワークシステムのアンケート機能を試験的に利用する運びとなった。

これにより、学生側もスマートな回答が可能になり、これまでなかなか難しかったクラス全体の集計を学生個人へフィードバックすることで、学生個人の奮起への一助となる可能性を見出した。また、教員側の集計・データ管理の業務簡略化やペーパーレス化などにも繋がった。

2. 保育所実習の目的

長崎短大の保育所実習は、保育所・認定こども園の生活を知り、乳幼児への理解を深め、保育所の機能・保育士の職務について学び、関連科目全体の知識・技能を基礎として、これらを総合的に実践する応用力を身につけるために必修10日間及び選択必修10日間の計20日間実施する。

保育所実習を通して、子どもに直接関わりながら子どもや子どもを取り巻く人的・物的・社会的環境や、保育者による子ども一人ひとりの姿を丁寧にとらえた観察・記録等から立案された保育計画を基に日々の保育が展開されていることを具体的に理解していく。

また、保育の現場に入り、学生自身が保育士の仕事内容（直接的・間接的）を知ることにより、保育職としての職業倫理及び子どもの最善の利益を保障した保育の実際を知るきっかけに繋げることを主な目的としている。実践実習の内容は以下の通りである。

授業形態：実践実習の内容 <シラバス：保育実習Ⅰ（保育所）>

- 1 施設及び保育所・認定こども園の役割と機能について学ぶ
- 2 観察や記録を通し子どもを理解し、適切な援助や関わりを学ぶ
- 3 発達過程に応じた保育内容・保育環境について理解する
- 4 生活や余暇活動及び遊びの一部分を担当し、保育技術の習得をする
- 5 保育計画立案、実践、反省、改善ができる
- 6 施設及び保育所、認定こども園と家庭・地域社会との連携を理解する
- 7 安全及び疾病予防への配慮について理解する
- 8 専門職としての保育士の役割と職業倫理について学ぶ

3. 授業展開

初回の授業時に授業計画表を受講生へ配布し、15回の授業で実施する項目について説明を行う。これは、資格要件に必要な実習の意義・目的の明確な意識付けをはじめとし、指導計画立案等に関わる履修内容を学生が把握するためであり、実習生としての心構えや実習施設へのオリエンテーションに臨むための事前指導など、内容は多岐に亘る。

また、実習実施に向けた保育指導計画立案や模擬保育（学生が保育者並びに子ども役を担いシミュレーションを行う）を授業に取り入れており、子どもの年齢・発達状況に応じた実践活動の環境構成や時間配分等の配慮ができるようになることも一つのねらいとしている。

模擬保育については、0歳児クラス、1歳児クラス、2歳児クラスとグループを分けて、1名選出された主担当学生が補助の保育士等を決め自身が立案した保育計画表に基づいて部分実習に挑戦する。この経験を通して、子どもの年齢に応じた保育活動の考案の再考や、実際の子ども一人ひとりの性格や特徴を把握しながら関わることへの配慮、また、個が集団の中で過ごすことによって育つ様々な側面を丁寧に捉えて、保育を展開する視点の重要性に気づくことを学びのねらいとしている。

保育場面を想定した演習（模擬保育など）を取り入れた授業概要は、以下の通りである。（表3-1）

表3-1 授業概要 <シラバス：実習指導（保育実習指導Ⅰ・教育実習指導）>

| | |
|---|---|
| 1 | 保育所・認定こども園の生活を知り、乳幼児への理解を深め、保育所の機能・保育士の職務について学ぶ |
| 2 | 既習の教科全体の知識・技能を基礎として、これらを総合的に実践する応用力を身につける |
| 3 | 子どもに直接関わることを通して、子どもや子どもを取り巻く環境について理解を深める |
| 4 | 保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する |
| 5 | 保育士としての職業倫理と子どもの最善の利益の具体的内容について理解する |

4. 結果概要

本報告では、実習を振り返るためのツールとして、従来紙媒体で感想を手書きしていたところを、今回は試験的にスマートフォンで回答できるアンケートシステムを併用した。アンケート内容は、過去の完全記述式の回答から汎用的な選択肢を用意し、複数選択式を取り入れ率直な意見を集計することとした。回答率は約40%だったため（n=46）、回答率アップのための告知方法改善など今後の課題は残るものの、概ね傾向が掴める結果となった。

具体的な結果として、『質問6（1）保育所（園）の保育内容について理解したことを書いてください。（複数選択可）』に対する回答は、「実習園の保育方針の尊重」、「子どもの発達の個人差」について理解できたとの回答がそれぞれ3割程度、「目指す子ども像」「行事の実際」について理解できたと回答した学生がそれぞれ2割程度（複数選択式）であった。（グラフ7-1）

また、実習日誌の『質問7（2）毎日の「保育のねらい」や自身の「実習のねらい」は欠かさず記入し、それらを意識して実習に臨みましたか。（1つ選択）』については、「欠かさず記入し実践できた」と回答した学生が95%であった。（グラフ2）

このアンケートシステムを活用することで、紙面での回答より学生側の回答の負担も軽減できることに繋がり、自由記述だけではなく選択肢を設けたアンケート方式により客観的な回答を得ることが可能になった。また、学生側の自由記述からは、主体的に実習に臨んでいる様子が伺える表現やキーワードがあり、課題意識を持って日々の実習に取り組んでいる様子が読み取れた。

5. 倫理的配慮

本稿においては、保育士資格取得に必要な保育所実習（必修10日間及び選択必修10日間）の振り返り結果（自

由記述及び数値) による考察のみとする。

6. アンケート内容

アンケートの設問は全部で10問程度あるが、本稿ではその中で保育者として必要と思われる「保育の視点」に関する2問について深く考察を行った。

7. アンケートの結果と考察（質問6について）

【質問6】 (1) 保育所(園)の保育内容について理解したことを書いてください。(複数選択可)

- ① 実習園の保育方針の尊重
- ② 目指す子ども像
- ③ 行事の実際
- ④ 子どもの発達の個人差
- ⑤ その他

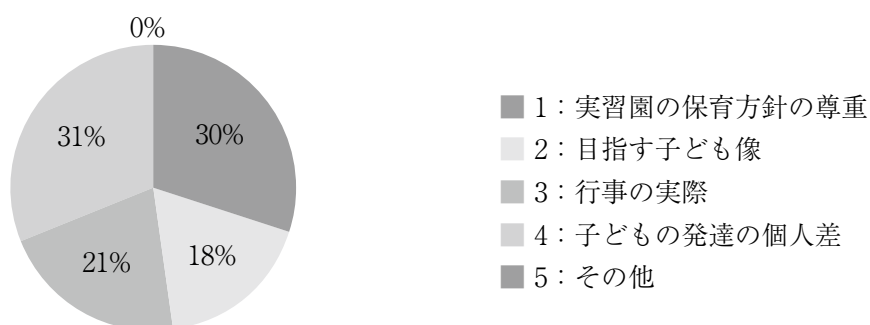
質問6の5つの選択肢の設問の意図としてはそれぞれ以下の通りである。(表4-1)

表4-1 質問6の5つの選択肢の設問の意図

| |
|--|
| ① 実習園の保育方針の尊重 |
| ・オリエンテーション後に提出する「オリエンテーション報告書」への転記を通して、実習園の保育方針・目標や特色ある保育内容に関する確認のため |
| ② 目指す子ども像 |
| ○情報収集の方法 ・1年次の内諾依頼の訪問時に園から受ける説明 ・2年次のオリエンテーション ・各HP内容確認 ○知っておくべき理由 ・実習園の保育の流れや保育の方法を理解するため ・様々な体験活動を通して子どもに身につく力を理解するため ・子どもに必要な体験活動に基づいた責任実習等の指導立案、保育実践のため |
| ③ 行事の実際 |
| ○行事に関する確認 ・行事についての事前説明を受けた ・行事の参加・見学を通して、保育者の役割や保育者間の連携について理解するため ・行事の参加・見学を通して、通常保育時以外の子どもの姿を捉えるため ・その他、総合的な気づき |
| ④ 子どもの発達の個人差 |
| ・実習内容については、園側が提示する実習スケジュールだけでなく、学生自身が「〇歳児クラスで何を学びたいか」を意識させ、学生自身で実習計画を立案する場合もあるため ・子どもの年齢・発達による個人差に応じた関わり及び援助の違いの理解・確認のため ・学生自身が「子どもの発達の個人差」に配慮しながら関わることを、様々な実践を通して学ぶことが求められるため |
| ⑤ その他 |
| 上記①～④以外。 |

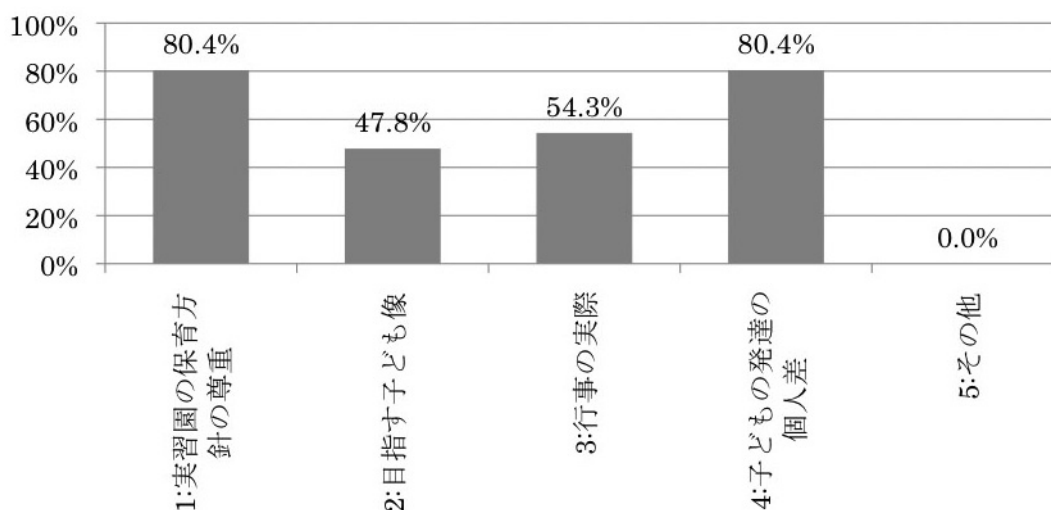
7-1. 集計結果

グラフ7-1. 【質問6】 保育所（園）の保育内容について理解したことを書いてください。（複数選択可）



「実習園の保育方針の尊重」は30%、「子どもの発達の個人差」について理解できたとの回答は31%、「目指す子ども像」は18%、「行事の実際」について理解できたと回答した学生は21%であった。（グラフ7-1）

グラフ7-2. 【質問6】 保育所（園）の保育内容について理解したことを書いてください。（複数選択可）



「①実習園の保育方針の尊重」及び「④子どもの発達の個人差」については回答者の8割以上が理解できたと回答した。「②目指す子ども像」、「③行事の実際」についてはほぼ半数が理解したと回答した。（グラフ7-2）

質問6に関連して、『【質問9】（4）保育士の仕事内容について理解したことを書いてください。（自由記述）』について様々な回答が得られたため、「間接的な仕事」及び「直接的な仕事」の2グループに分けて以下のように整理した。（表7-1、表7-2）

表 7-1 間接的なかかわり

| | 間接的なかかわり（自由記述・原文） |
|----------|--|
| 保護者支援 | 連絡帳記入 保護者が忙しく迎えの際に保育者と話せないときの対策で、廊下にホワイトボードを設置し今日あったことを書き写真もはる 保育士間の連携の仕方 保護者とのコミュニケーション 担当分けをしながら子どもの活動に携わる |
| 保育の記録、計画 | 年間計画等の作成 事務作業や週案・日案の立案 行事前は色々な作業があり、大変さと達成感があった |
| 環境構成、準備 | 行事ごとの準備 安全確保 園内外の環境整備 掃除などの保育以外の仕事など 日々の保育に必要な制作物の準備（午睡中） お集まりの伴奏や司会 |

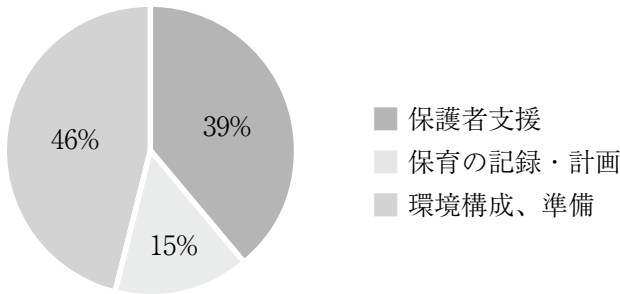
表 7-2 直接的なかかわり

| | 直接的なかかわり（自由記述・原文） | |
|---------------------------------------|---|--|
| 生活 | 子どもの個人差に配慮してその子にあった関わりや援助 声掛けをし、その子どもをこの1年間でのどのような姿にまで成長させるか考えた関わりが大事 | |
| | 子ども一人ひとりに合った対応、援助 | |
| | 子どもの様子を見守りながら楽しく保育所で過ごすことができるように配慮する。 | |
| | 子どもの生活の援助（清潔にすることや食事、排泄、睡眠等） 給食の配膳 掃除 子どもの年齢に合わせた言葉かけや保育の実践 | |
| | 年中、年少児が午睡するときに製作や年長児に数字の勉強を教える。 | |
| | 園児一人ひとりの発達にあった声掛けや、全体での子どもの様子を見ながら活動に繋げられていた | |
| | 甘えたい気持ちを受け入れて、膝の上で楽しむなど一対一の関わりをしている してはいけないことがあったらきちんとしてはいけないと伝える | |
| | 排泄援助、離乳食・授乳への導き、子どもの健康管理、遊びの見守り | |
| | 子どもが出来たことは大いに褒める | |
| | 子どもが主体 | |
| | 子どもができるようになるように全てやってあげるのではなく、出来ない事だけ援助し、見守ること。 | |
| | 遊び | モンテッソーリ教育で子どもたち同士が言い合ったり取り合いをしていたとしてもすぐに仲介せずに見守ることが多く、できるだけ子どもたちだけで解決できるようにしていた。 |
| | | 成長をそばで見守り、一緒に喜ぶ |
| モンテッソーリ教育を行っているため、その時の子どもへの声掛けや援助が必要。 | | |
| 子どもたちの発達にあった活動を考え、一緒に実践していく。 | | |
| 子ども1人ひとりにあった関わりや、援助が大切であるということ。 | | |

| | |
|--|--|
| | 生命を守り、個々の心身の発達に保育士として役割があるということ |
| | 子どもが意欲的に活動できるような声掛けをしながら一人一人にあった援助をされていた |

さらに自由記述の結果からどのような回答が多かったのか、比率を円グラフで表したところ、以下の結果となった。

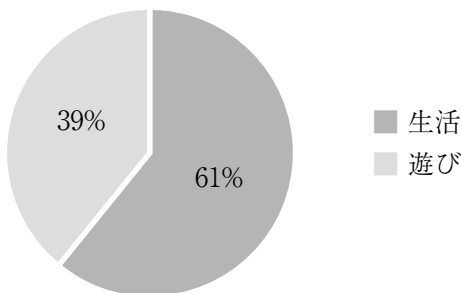
グラフ 7-3. 間接的なかかわり



●間接的なかかわり

環境構成や準備、保育者支援に関する記述が多く、保育の記録・計画に関する記述は比較的少なかった。(グラフ 7-3)

グラフ 7-4. 直接的なかかわり



●直接的なかかわり

遊びに関する記述よりも、生活面に関する記述の方が多かった。(グラフ 7-4)

『間接的なかかわり』の環境構成や準備については、制作物の準備や伴奏など授業で直接学んだ内容が実際の保育現場で実践できたことによって、より理解が深まったため回答数も多かったのではないかと推察する。

『直接的なかかわり』の生活面に関する記述が多かった理由としては、直接子どもと接することで発達の個人差を実感し、園児一人ひとりに合った声掛けの重要性などを感じたためと推察する。

座学で学んだ知識を実習で活かすことと、実習園でリアルに子どもに接する気づきの両方を積み重ね、卒業までの残り期間でしっかり振り返りを行うことで、理論と実践を踏まえた往還的な学びの定着に繋がっていくと考える。

7-2. 2グループに分けた考察

< a. 学生が実習で身に付けることができたと思われる点 >

① 間接的なかかわり

保育内容の理解において、環境構成・準備として「お集まりの伴奏や司会」と回答した学生がいた。これは保育者のスキルのひとつである「1日の保育内容の組み立てや役割」、「子どもたちが楽しめることを考えること」という、子どもの年齢・発達段階に応じて必要な体験活動における保育実践力を身に付けたのではないかと考えられる。

② 直接的なかかわり

直接的なかかわり（生活面）としては「園児一人ひとりの発達にあった声掛けや、全体での子どもの様子を見ながら活動に繋がっていた」という回答から、実習生が子どもの発達の状態やマイクロ・マクロの視点を感じつつ実習に臨んでいた成果ではないかと考える。中でも、子どもの生活に関わる部分での回答が多かったことから、“子どもの基本的な生活習慣の自立”に向けた保育者の関わりや、その子どもに必要な応じた援助を行う保育者の配慮面に着目する視点を持てることが出来たと推察される。

< b. 学生が実習で難しさを感じた点、努力してほしい点 >

① 日誌記入について

「保育の記録・計画」の中で、「行事前は色々な作業があり、大変さと達成感があった」と回答した学生がいた。回答の背景の一つに、園行事がある時期に保育実習行った学生は、1日の保育の流れが通常の保育の様子とは異なることで、日誌記入においても実習生の動き・気づきの欄に「～活動を見守る」記入が多く見受けられた。「子どもと十分にかかわることができない」「(行事の練習ばかりで)自分がすることは、あまりなかった」と答えた背景は、時間的・精神的なゆとりがない様子を子どもや保育者の姿から感じ取ってしまったのではないかと考えられる。二つ目には、行事期間中の保育実習の中で行事を通した子どもの心身の成長を近くで見守る機会があったことから、このような回答が得られたのではないかと推察する。

② 子どもとの関わりについて

園行事がある時期に行う保育実習は、子どもと関わる機会や時間が少ないまま1日の保育が終わることもある。園が多忙な時期であっても、子どもの主体的な活動に繋がるような保育者の様々な声かけの仕方・工夫を吸収することも可能である。

その時期・場面だからこそ、育ちゆく子どもの姿を捉えることが出来る側面もあるため、行事を通した子どもの育ちを理解する客観的な視点や、園行事の在り方などに関する具体的な理解を目指していく必要があると考えられる。

8. アンケートの結果と考察（【質問7】について）

【質問7】(2) 毎日の「保育のねらい」や自身の「実習のねらい」は欠かさず記入し、それらを意識して実習に臨みましたか。(1つ選択)

- ① 毎日「保育のねらい」や自身の「実習のねらい」は欠かさず記入し実践できた
- ② 「保育のねらい」を尋ねることはしたが、日誌への記入を忘れた
- ③ 自身の「実習のねらい」を記入せず、実習に臨むことがあった
- ④ 保育者へ「保育のねらい」を確認せず、実習を行う時があった
- ⑤ その他

設問の意図としては以下の通りである。

『指定保育士養成施設の指定及び運営の基準について（平成30年4月27日 厚生労働省雇用均等・児童家庭局長通知）』中の、教科目の教授内容による「保育実習Ⅰ」の目標は、

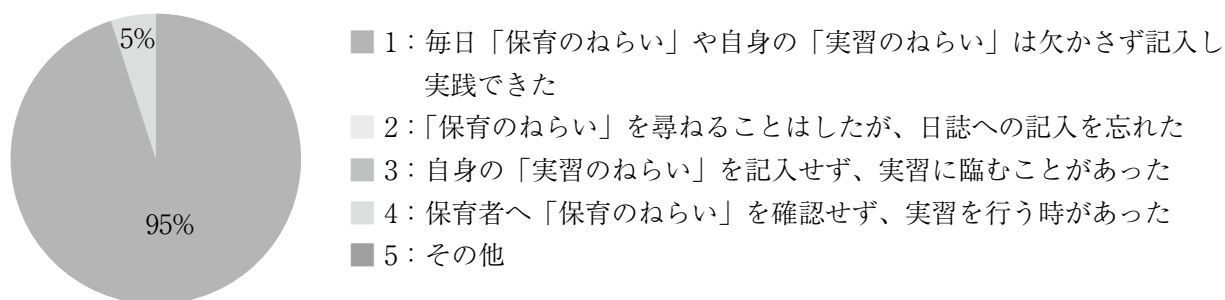
1. 保育所、児童福祉施設の役割や機能を具体的に理解する
2. 観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める
3. 既習の教科目の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に理解する
4. 保育の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する
5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解する

と表記されている。(引用文献1))

| |
|---|
| ① 毎日「保育のねらい」や自身の「実習のねらい」は欠かさず記入し実践できた ② 「保育のねらい」を尋ねることはしたが、日誌への記入を忘れた ③ 自身の「実習のねらい」を記入せず、実習に臨むことがあった ④ 保育者へ「保育のねらい」を確認せず、実習を行う時があった |
| 本学2年間の養成課程において、2年次夏季休暇期間に10日間及び20日間で保育実習Ⅰ・Ⅱを行っている。この実習体験を有意義なものにするためには、各科目における学びと実践的な学習の場面でもある実習を総合的に関連付け、子どもと保育者との直接的・間接的な関わりのあり方を具体的に捉え、専門職としての学びを深化させることが望まれる。 実習生は実習施設における保育の計画に基づいて展開される1日の保育に参加できるよう、毎朝クラス担任に「保育のねらい」を確認する必要がある。日々の「保育のねらい」を確認することで自身の「実習のねらい」が明確となり、その視点をもって実践活動に取り組むことや、記録を通して省察することを継続することで保育のPDCAサイクルを理解することを目指している。 |
| ⑤ その他 |
| 上記①～④以外。 |

8-1. 集計結果

グラフ8-1.【質問7】 毎日の「保育のねらい」や自身の「実習のねらい」は欠かさず記入し、それらを意識して実習に臨みましたか。(1つ選択)



実習日誌の記入において、毎日の「保育のねらい」は必須項目であるため、95%の学生が欠かさず実施できたと回答し、残り5%は4を回答した。

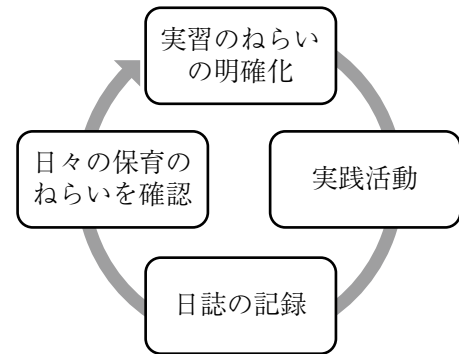
8-2. 考察

事前指導として、毎朝クラス担任に「保育のねらい」を確認し（記録）、実習生自身の「実習のねらい」を掲げることを指導しており、必須項目である。

しかし、今回のアンケート結果では少人数ながらも“4. 保育者へ「保育のねらい」を確認せず、実習を行う時があった”という学生が5%いたことを受け、今後の実習指導においても「保育のねらい」の重要性を具体的に理解できるような伝え方の工夫が必要であると考えられる。

実習生は、実習施設における保育の計画に基づいて展開される1日の保育に参加できるよう、毎朝クラス担任に「保育のねらい」を確認する必要がある。日々の「保育のねらい」を確認することで、自身の「実習のねらい」が明確となり、その視点をもって実践活動に取り組むことや、記録を通して省察することを継続することで、保育のPDCAサイクルを実習を通して体験することになる。(図8-2)

図8-2. 実習で体感するPDCA



毎日の「保育のねらい」を確認せず(出来ずに)、保育に参加することがあったと回答した学生の理由として【質問8】に自由記述を求めている中に、「(担当保育者に) 聞くのを忘れた」、「先生が遅出の時があり、すぐに保育を始められて聞くタイミングを逃したり、あとで伝えると言われた時あったから」などの記述があった。

実習生が担当保育士へ「保育のねらい」を確認するタイミングを逃してしまうことは、保育所の一日(保育者の仕事内容)から考えても容易に想像できる。それは、目の前にいる子どもへの対応を最優先している保育者の姿から、実習生が「今、先生は子どもの対応があるので、あとから状況を見てから尋ねよう」と臨機応変な対応ができた結果であるとも捉えられる。

○実習で体感するPDCA

<8-2.1 「実習のねらい」について>

実習施設は、オリエンテーションの場などを活用して、園長や主任等が実習園の理解(保育方針や特色等)や実習園の保育(保育の計画や園行事等)などの説明にあたる。また、10日間及び20日間の実習期間における ①(今回の)実習の目的 ②子どもの理解(発達の個人差・友達とのかかわり等) ③保育者の役割の理解(子どもの主体性を尊重したかかわりや発達の援助等) ④実習生がチャレンジしたい内容(部分実習や責任実習、指導案の提出等)について確認することで、実習生は実習に対する心構えや確認事項の理解や様々な準備をすることが可能となる。

<8-2.2 「実践活動」について>

また、実際に保育に参加することを通して、子どもたち一人ひとりのありのままの姿を捉えることや、保育者の声かけの工夫や配慮内容に気づき、部分実習などの実践活動に繋げることができる。

<8-2.3 「日誌の記録」について>

日誌に記録することは、①保育所における保育の実際 ②保育所における保育者と子どもたちとの関わりや活動内容 ③様々な保育場面の中における実習生の気づきなどを整理し理解するために必要なことである。(日誌に記した内容が適切な文章表記や文体であるか、誤字脱字の確認を行った上で、決められた期日・提出先に期限を守って提出することを継続して行うことも同時に求められる。)

日誌に記す過程を通して、1日の実習を「保育のねらい」や「実習のねらい」の視点に沿って行う客観的な振り返りが、実習内容の改善と自己課題の明確化に繋がっていくことに気づいていく。さらに、子どもの行動・発言に対し保育者の声かけや援助内容に対する“実習生の気づき”欄への具体的な記入は、その後自身が保育を行う際に、子どもたちの活動がより充実したものになるために必要な援助への気づきに繋がるものであると考える。

<8.2.4 「保育のねらい」について>

選択肢『2. 「保育のねらい」を尋ねることはしたが、日誌への記入を忘れた』と、『3. 自身の「実習のねらい」を記入せず、実習に臨むことがあった』と回答した学生は0名だったことから、事前の日誌記入を怠ることはなかったと読み取れる（判断する）。

9. 今後について

9-1. 設問設定

- ・『【質問6】 保育所（園）の保育内容について理解したことを書いてください。（複数選択可）』にある「② 目指す子ども像の理解」について、半数以下の学生が理解できたと回答したが、“何をもって実習園の＜目指す子ども像＞が理解できたと考えたのか”という具体的な根拠を引き出せるような選択肢設置の検討も今後の課題である。

9-2. 配属クラス

- ・『【質問6】 4. 子どもの発達の個人差の理解』については、“子どもとかわった”という記述及び高い数値は妥当性があると考えられるが、残り2割の学生が子どもの発達の個人差を理解することができなかったものと推察される。この結果を踏まえ、保育実習において、より発達の個人差が見られる乳児（3歳未満児）の保育に携わる日程を設けることが重要であると考え。（グラフ7-2）

10. まとめ・結論

アンケートシステムを導入したことで、学生においては実習の自己評価を行う際、客観的な振り返りの可視化に繋げることができた。得られた情報を学生自身がその後の学修に活用することも大事であると考え。今回のアンケート結果では、個々の発達の様子や集団の中で育まれる個の育ちを捉える視点を理解しながら実習に臨んでいた学生がいた。また、行事前の準備の大変さや子どもに対する関わり方の加減の難しさなどを記述回答した学生もいた。

今後は、アンケートシステムでの回収率を上げることで多様な学生の実習の様子や振り返りを把握し、学生個人に応じたフォローアップや、経年変化及び指導改善内容についても調査精度を上げていく必要があると考える。

学生が充実した実習を行うことができるよう、学科教員・科目間の更なる連携・協働の必要性が求められる。

11. 謝辞

実習を受け入れて下さった全ての施設の皆様に感謝の意を示すと共に、今後とも本学学生の保育実習の受け入れを切に願います。

また、保育実習を通して実際の保育を学んだ学生が、子どもを主体とした保育の奥深さや保育の広がりについて段階的に理解できるように、保育現場・養成校間の実習連携会議等の実施を目指していきたいと考える。

12. 参考文献

- 1) 林 邦雄・谷田貝 公昭監修、大沢 裕・高橋 弥生 編著、保育者養成シリーズ 幼稚園教育実習、一藝社出版、2012,p.90,ISBN978 - 4 - 86359 - 047 - 2.
- 2) 小櫃智子・守 巧・佐藤 恵・小山朝子・遠藤純子、実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド、わかば社、2019,p.24 - 25,p.36 - 37,ISBN978 - 4 - 907270 - 15 - 5.
- 3) 寺田清美・大方美香・塩谷香、乳児保育Ⅰ・Ⅱ 新・基本保育シリーズ⑮、2019,p.92 - 104,p.292 - 300,ISBN978 - 4 - 8058 - 5795 - 3
- 4) 志村聡子 編著、吉長真子・塩崎美穂・藤枝充子・渡邊美智子・坂田知子・柳井邦子・小柳康子・宇都弘美

著、はじめて学ぶ乳児保育,同文書院、2018,p.130 - 173, ISBN978 - 4 - 8103 - 1473 - 1.

13. 引用文献

- 1) 指定保育士養成施設の指定及び運営の基準について [改正後全文], 一般社団法人 全国保育士養成協議会, 平成 30 年 4 月 27 日, 教科目の教授内容【保育実習】保育実習Ⅰ.

【巻末資料①】

保育実習（保育所）事後報告アンケート

質問 1. 学籍番号

質問 2. 学生氏名

質問 3. 保育実習先

質問 4. 実習実施について（1つ選択）必須

1. I に行った
2. II に行った
3. I・II 両方行った
4. どちらも行っていない

質問 5. 合計日数（0～20 で記入）必須 日

1. 実習の目的・課題について

質問 6. (1) 保育所（園）の保育内容について理解したことを書いてください。（複数選択可）

1. 実習園の保育方針の尊重
2. 目指す子ども像
3. 行事の実際
4. 子どもの発達の個人差
5. その他

質問 7. (2) 毎日の「保育のねらい」や自身の「実習のねらい」は欠かさず記入し、それらを意識して実習に臨みましたか。（1つ選択）

1. 毎日「保育のねらい」や自身の「実習のねらい」は欠かさず記入し実践できた
2. 「保育のねらい」を尋ねることはしたが、日誌への記入を忘れた
3. 自身の「実習のねらい」を記入せず、実習に臨むことがあった
4. 保育者へ「保育のねらい」を確認せず、実習を行う時があった
5. その他

質問 8. (3) 前述の問いで 2・3・4 に該当する方にお尋ねします。

「実習（保育）のねらい」を記入出来なかった理由を書いて下さい。（自由記述）

質問 9. (4) 保育士の仕事内容について理解したことを書いてください。（自由記述）

質問 10. (5) 今回の保育所実習で、あなたの実習の課題は達成できましたか。（1つ選択）

1. 十分に達成出来た

2. ある程度は達成出来た
3. 少し達成出来た
4. あまり出来なかった
5. まったく出来なかった

2. 実習の事前準備について ※ 語群から選び記号で記入 (それぞれ複数選択可)

質問 11. (1) 事前に準備した内容について当てはまるものを選んでください。

質問 12. (2) 実践した内容について当てはまるもの書いてください。

質問 13. (3) 準備不足や、もっと準備をしておけばよかったと思う内容を書いてください。

| | | | |
|------|----------|------------|-----------------------------|
| ・名札 | ・ピアノ | ・メダル・ペンダント | ・責任実習準備 |
| ・手遊び | ・季節の童謡 | ・ペープサート | ・園からの課題曲 (園歌・朝の会・給食・帰りの会など) |
| ・指導案 | ・挨拶・自己紹介 | ・運動遊び | |
| ・絵本 | ・指人形 | ・エプロンシアター | ・その他 |
| ・紙芝居 | ・簡単なゲーム | ・パネルシアター | |

3. 保育実習記録について

質問 14. (1) 日誌を書くとき、記入枚数の指示はありましたか。(1つ選択)

1. あった
2. 指示はなく実習生に任された
3. その他

質問 15. 記入枚数について具体的におしえてください (1つ選択)

1. 1枚に簡潔にまとめる
2. 1日の活動の流れがわかる必要枚数
3. その他

質問 16. (2) 日誌提出方法や時間はいつでしたか。(1つ選択)

1. その日のうちに書き上げて、日誌提出後に帰宅
2. 家(または宿泊施設)に持ち帰り、翌日提出
3. その他

質問 17. (3) 実習記録誌について、園(実習指導担当者)から指導を受けたことはありますか(複数選択可)

1. 誤字・脱字
2. 指導案の形式
3. 内容の記入の仕方
4. その他

質問 18. (4) 1日分の日誌記入に、平均でどのくらいの時間を要しましたか。(1つ選択)

1. 5時間以上
2. 4～5時間
3. 3～4時間
4. 2～3時間
5. 1～2時間
6. 1時間未満

4. 保育実習を終えての総括的所感について

質問 19. (1) 保育実習を終え、あなたの就職に関する気持ちに最も近いものを選んでください。(1つ選択)

1. 保育者になりたいという気持ちがさらに強くなった
2. 実習前はそうでもなかったが、保育者もいいな と思った
3. 実習前は保育者になりたいと強く思っていたが、実習をして「自分は向いていない」と感じた
4. 保育者になる気はないが、この実習は今後の人生において良い経験となった
5. 今回の実習で、資格・免許取得のための義務は果たしたという気がする
6. その他

5. 自己採点

質問 20. (1) 今回のあなたの実習を自己採点してください(100点満点中何点か)。(1つ選択)

1. 100～80
2. 79～60
3. 59～40
4. 39～20
5. 19～0